

道路改良工事における 墜落事故事例

国土交通省北海道開発局事業振興部工事管理課

たにくち ひでゆき
工事評価管理官 谷口 秀之

1. はじめに

北海道開発局は、北海道における河川，道路，

港湾・空港，農業，漁港等の整備，官庁営繕等の社会資本整備を総合的・一体的に実施しており，出先機関として道内各地域に11の開発建設部を置き，地域に密着した開発行政を推進しています。

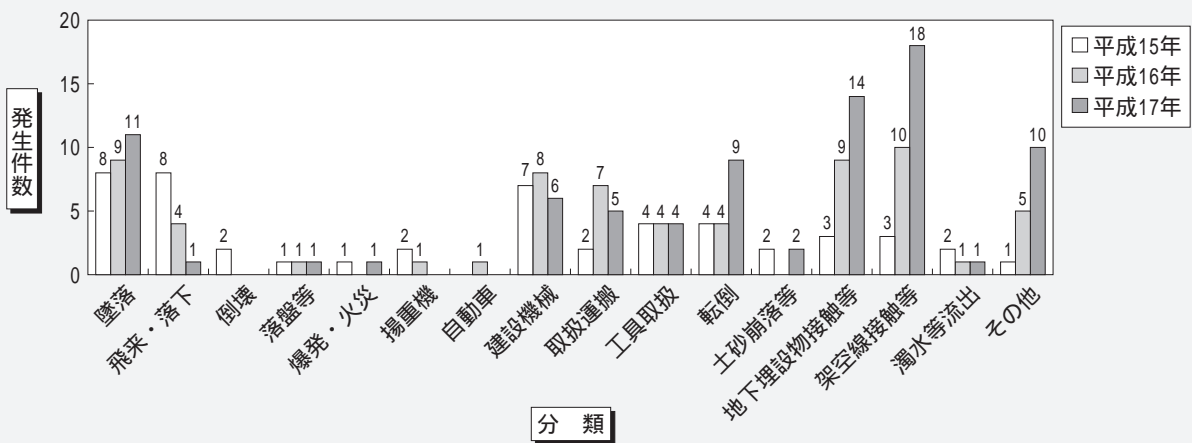


図 1 事故分類別工事事故発生件数の推移

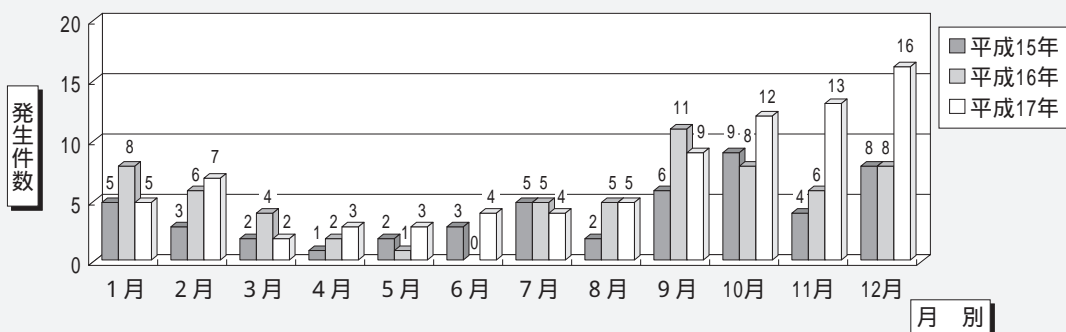


図 2 月別工事事故発生件数の推移

その中で、北海道開発局では、年間約2,700件の工事を発注しており、工事事故の防止のため、発注者として各工事現場における安全管理体制の充実を図るとともに、安全対策の取り組みに従前から努めてきましたが、平成17年の工事事故件数は83件となっており、ここ数年のほぼ横ばい状態から前年度比で19件増という残念な結果となっています。また、月別発生件数を見ると、工事稼働件数が少なくなるにもかかわらず、積雪・気温の低下等の条件が悪化することから冬期における発生件数が多くなっています。

今回、北海道開発局における労働災害事故の中で大きな比率を占める墜落事故事例についてご紹介いたします。

2. 事故発生の概要

(1) 工事の概要

道路改良工事における落石防護柵工

(2) 事故の概要

当日の作業は、落石防護柵のバックステーケーブルを2名がトラックから荷下ろしし、被災者を含む2名がケーブル(15kg)を肩に掛け、法面上の仮設階段区間(法長40m)と親網設置区間

(同44m)を運搬し、高さ42mの法面天端まで4往復する作業でした。

被災者は、ケーブルを肩に抱えていたため、仮設階段を最上階まで登った後、急勾配(平均勾配30度)の親網区間を避けて、通路ではない法枠天端上(幅64cm)を通っていたが、担いでいたケーブルの先端が法面に設置されていたラス網に引っかかり、バランスを崩して約4m下の小段コンクリート上に転落し被災しました。

3. 原因

当初は法面すべてに昇降階段(40m)と単管高所足場(44m)が設置されていましたが、法面仕上げのため昇降階段から上の単管高所足場が撤去され、事故発生時には親網のみ設置となっていました。また、足場や通路が設置されていないにもかかわらず、KYでは重機との接触注意のみで作業方法・運搬経路等についての適切な打合せや指示がなく、作業手順書も守られていなかったことや危険箇所への立入禁止表示がないことに加え、高所での作業にもかかわらず被災者が安全帯を着用していなかったことが本事故の発生原因として考えられます。



現場状況



ワイヤー運搬状況

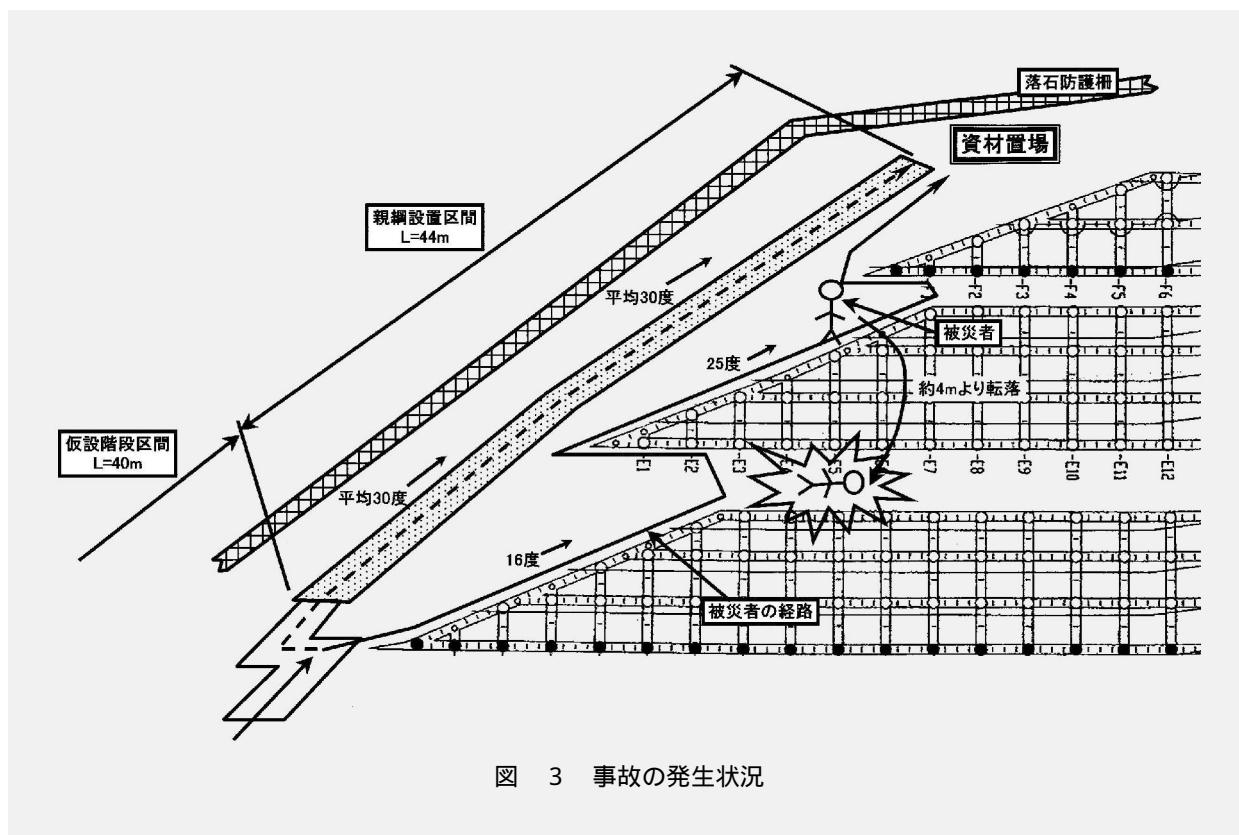


図 3 事故の発生状況

4. 対 応

事故後の対応として、当該事務所管内の全工事現場の緊急点検の実施，工事災害防止連絡協議会の緊急会議を開催するとともに，事故調査委員会による現地調査を行い，再発防止へ向けた対応として，以下の対策をとることとしました。

- ① 親綱しか設置されていなかった区間については，適切な足場・階段等を設置する
- ② 高所・荷揚げ作業等を行う場合，搬入経路および作業方法についての周知徹底と作業手順の見直しを図る
- ③ 通路以外の危険箇所への立入禁止表示を行う
- ④ 安全帯未着用者については，作業前の相互確認を行い未着用者は入場させない

5. おわりに

北海道開発局においては，平成17年における工事事故のうち，労働災害事故が約半数を占めています。今回の事故形態である墜落事故については，労働災害事故の中でも大きな割合を占めており，発生件数はここ数年，わずかながらとはいえ増加しているという状況です。また，公衆災害事故については，地下埋設物や架空線への接触といったものが平成16年から急増しており，工事事故全体の中でも40%以上と大きな割合を占めるようになってきました。北海道開発局としては，今後とも発注者はもとより受注者とも協力して，同様な事故の再発防止のための安全対策に向けて，さらにより一層の努力をしていきます。